

## 令和五年度 飯田高等学校卒業式 式辞

### 式辞

弥生三月、冬の空気が和み、木々のつぼみも我先にと大きく膨らむ季節を迎えました。本日ここに、令和5年度飯田高等学校卒業証書授与式を挙げるにあたり、ご多忙にもかかわらず、伊藤同窓会長様、田中PTA会長様をはじめとする来賓の皆様方のご臨席を賜り、栄えある卒業式に錦上花を添えていただきましたこと、心より御礼申し上げます。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業おめでとうございます。「這えば立て、立てば歩めの親心」と申しますが、親として子の成長を願う気持ちはいつの時代も、いくつになっても変わらないことと存じます。日頃のご労苦、ご訓育がここに実り、今日この日を迎えられることに心からお喜び申し上げます。

只今、卒業証書を授与した普通科197名、理数科36名、計233名の卒業生の皆さん、晴れの卒業おめでとうございます。教職員を代表して心よりお祝い申し上げます。思い返せば、皆さんは中学校での卒業式、そしてそれに続く3年前の本校での入学式、そして入学後の学校生活もコロナ禍により、様々な制約のもとで行わざるを得ず、息が詰まるような辛く切ない気持ちだったことでしょう。

しかし、ウィズ・コロナの時代となった今年度、校内では友と明るく笑う声が響き、高松祭をはじめとする生徒会行事等もコロナ禍前の状態で行われました。今日の卒業式も4年ぶりに多くの保護者や来賓の皆様方、そして在校生の列席のもと、皆さんの門出を祝うことができ、私も大変うれしく思います。

この佳き日を迎えるにあたっては、卒業生の皆さんのたゆまぬ努力の結果であることは言うまでもありませんが、皆さんのことを絶えず気遣いながら、支えてくださったご家族をはじめとする周囲の方々の励ましの賜物であることを忘れてはなりません。この人生の節目に当たり、お世話になった方々へ素直に感謝の気持ちを是非伝えて下さい。

さて、卒業生の皆さんの今の胸中は、新たな場所での新たな生活を前にして、大きな希望と少しの緊張感で膨らんでいることと思います。しかし、皆さんがこれから歩んでいく道のは決して平坦ではなく、これまで以上に予測不可能な事態に遭遇し、その対応に迫られることになると思います。

まさか誰もが元日に起こるとは思っていなかった能登半島地震、ごく当たり前に過ごしていた穏やかな元日の団欒が、そしてその後の日常生活が一瞬にして奪われ、多くの方々が犠牲となりました。今でも厳しい状況のもと、辛く不自由な生活を強いられている方々が多くいます。震源地である石川県珠洲市には、本校と同じ校名の飯田高等学校があります。2月13日によろやく3学期の始業式を行ったとのことですが、本日、本校と同じ第76回目の卒業式を挙げる事ができたとのことでした。

また、自然災害以外にも気候温暖化や人口減少等に起因する様々な課題や、国際情勢の不安定化等が、今後私たちの生活や行動にこれまで以上に大きな影響を及ぼしていくことになるでしょう。このようになかなか先の見通せない状況ではありますが、皆さんの世代、所謂Z世代は幼い頃に東日本大震災を経験し、また義務教育段階からSDGsに関する情報等に多く接していたため、社会課題への関心が高い世代であるともいわれています。

皆さんは、これまでの高校の授業では、大学合格等に向けた知識の習得が主でしたが、これからの新たな学びの場においては、今まで以上に社会の様々な課題解決に向けた知識を修得し、活用することが重要となります。そして、その知識は価値観の異なる他者や人類の叡智がまとめられた書物等と出会い、対話をすることで、相対化され、より深く、より確かなものとなります。是非これからの新たな生活においては、刺激となるような、お互いを高められるような他者との関わりを積極的に持ち、また古今東西の名著等にも触れてもらいたいと切に願っています。

終わりに、校歌の最後の一節にある『理想は高く智慮深く、精華を揚げん美をなさん』を胸に秘め、本校で過ごした3年間の高校生活を糧として、それぞれの進学先で確かな歩みを刻んで行って下さい。

卒業する皆さんの将来が光り輝き、皆さんの人生が幸福と充実感に、満たされることを心から願って式辞といたします。

令和六年三月一日  
長野県飯田高等学校長 駒瀬 隆